

キンスポ

2輪専用サーキット
近畿スポーツランド
情報発信紙
秋号(第5号)
Tel(0774)88-3633
http://www.kinspo.com



2015 KSLガール

●KTC杯 北川杯でまっぴーず 皆さん よろしく お願いします♡

J-Trip杯近畿スポーツランドRR 第2戦

気温40度の超々灼熱地獄の大会なんとか無事終了!!

去る8月26日(曜日)、キンスポRR第2戦が今年の夏の今年一番暑い日に開催された。全14クラス総参加台数154台という盛りだくさんで、各クラス素晴らしいスプリントレースが開催された。今回はレーシングスタンドメーカーの有限会社「Jスタイル」様の冠協賛にて開催された。お昼にはシンガーソングライターの左奇啓史、サザキヒロシ氏の熱中ライブも開催された。午後からの決勝は路面温度60度を超える過酷な環境で開催され、各ライダーの体力も、タイヤのパフォーマンスも限界ギリギリ?いや、限界超えの中激しい熱いバトルのレースで大いに盛り上がった。中でもFN4&FPクラスは日本一決定戦、言ったもん勝ち?として開催され、初代チャンピオンに死神博士が輝いた。NSF100HRCTロフィーでは親子ほど年の離れた榊原浩一、佐藤まおのバトルに場内大いに盛り上がり、最終コーナーで奇襲攻撃にたて佐藤が奇跡の大逆転で、初優勝を飾った。そして最終レースのMGPPでは番長 UNO-Pに小学生ライダーの細谷が迫るが痛恨の転倒にて、番長が2連勝となった。とにかく暑さと熱との戦いは、主催者熱中症というおまけ付きで、幕を閉じた。次回最終戦はKTC杯として、10月25日(日)に開催される。コース詳細は4面に

現金大予想は特別に倍額6万で開催された



↑真夏の天空に 154 台ものエントリーで賑わった



↑番長UNO-Pに肉迫する細谷だが・・・この後



ストリートでの急激な進路変更禁止!

トピックス

トイレが洋式簡易水洗に!

天空のサーキットだけに水道のないキンスポ。それだけに男子トイレは汲み取り式の自然落トイレットの営業で25年。お客様からトイレ改善の希望も常々指摘されてきました。きれいに保つために、頻りに清掃することや、塗り替えなど美化に努力してきたが、時代も変わり、和式トイレが苦手な若い世代が増え、いよいよ無視できない状態になってきた。しかしながら貧乏サーキットのキンスポは長い間、資金的な問題で、先送りに先送りの状態が続く中、いよいよトイレの改修に着手することが決まった。内容は男子トイレの和式を3、2に減らし、室内を拡充し、洋式の簡易水洗に変更。また女子トイレも1つを洋式簡易水洗にし、車椅子の方も使用できるようにすることも検討中だ。水道がないだけに完全水洗トイレとはいかないが、これで衛生的にも格段に向上し、皆様に気持ちよく使っていただけるようになる。早ければ10月にも着工することを目標として目下調整中だ。※10月中旬に男子トイレが完成する 見通し 皆さん御期待下さい。



BOSCO MOTO レンタルギア
BERIK レーシングスーツ・ブーツ・グローブの貸し出しスタート!

ベリック・アレンブランドの購入を検討されている方で実際の着心地を試したい方初心者の方やレースを始めたいけど未だ購入されていない方一度サーキット走行を体験したい方、ツナギを修理中の方、ツナギを忘れた方、エンジョイ系レースに参加したい方、体験走行企画の参加者の方やツーリングイベントやレース体験イベントの参加者等々……お気軽にご利用下さい。詳しくはHPを! ご予約・お申込みは お電話で! 0774-88-3633

●特集!

●キンスポの女性ライダー

貴女も私たちのように楽しく熱いバイクライフ始めてみませんか? キンスポで輝くあなたは美しい!



●脳殺美女軍団! 私たちと楽しくレースしませんか?

右から田村菜美選手(JK)、紗由選手、伊東里奈選手、中本律子選手
小野睦子選手(セクシーダイナマイト!)、河田優枝選手

圧倒的に男性の多いレースの世界だが、キンスポは比較的女性ライダーの多いサーキットとして親しまれている。エンジョイ出来る多彩なレースやスクール、そして状況に応じたクラス分けなど初心者や女性が走りやすい環境に努めてきたつもりで日々営業している。最近では初心者専用走行時間など、女性でも非常に入りやすい環境が整いつつある。
女性ライダーと言っても様々で、小学生からお孫さんがいる方まで幅広い年齢層で、ライダーレベルも様々、男性よりもバイクライフを楽しむのは女性の方が断然優れていて、自分のペース、スタイルで楽しんでいるように思う。これからは沢山の女性ライダーで賑わう天空のサーキットでありたい。和気藹々とした雰囲気の中、今日も皆さん練習に励んでおられます。女性ライダーの皆さま、ご意見やご希望などありましたら、なんなりとキンスポスタッフまでお寄せ下さい。これからも宜しくお願いします

●女性ライダーライティング写真集!!



紗由選手 20代の女性ライダー
最近練習に励み実力を伸ばしている
ルーキー チームへなちょこ所属



小野選手持ち前の明るさと熟女の魅力
たっぷり練習に日々励む!
ルーキー チーム婦人会所属



中本選手 りっちゃんのお称で親しま
れているいつも明るい中本選手!
ルーキー R Sハミン所属



河田選手 耐久、スプリント問わず出場
し、どんどん速くなっているライダー
御主人とともに日々練習に励んでいる
ルーキー 所属 ガレージカワタ



伊東選手 りな蔵さんという愛称で呼
ばれる現役最速女性ライダー
Mで42秒台を記録している
M-GPクラス 所属 湾スカハミン



田村選手 非常にシャイな現役女子高
生ライダー だが、実力はかなり高い!
今日も日々練習に励む S Pクラス
K-MAXレーシング 極楽蝶 所属



後藤田 選手 最近メキメキと実力をつけ、
家族で団結して 日々練習に励むジュニアライダー
M-1クラス 所属 T-TECH



北川章子選手 キッコさんの愛称で親しま
れている美しいライディングフォームで、日々タイムアップしている
M2クラス 所属 ハミン その他



榊原香織選手 夫は名手、榊原浩二選手 いつも明るくちょっぴりひょうきんな榊原選手…強敵ぞろい M-2 クラスで上位を目標す! M-2クラス 所属 榊原軍団 MOTO★STAR



芳賀コリア選手 美人女子高生ライダーのコリアさん。伯父に芳賀紀之選手、父に芳賀健輔氏という華麗なる一家だが素朴で、日々努力している。M-3 クラス 所属 K-MAX レーシング



山内幸穂 選手 四国から参戦のうら若き乙女の山内選手 各地の大会を武者修業的にめぐり、実力を伸ばす! 頑張れシッコク! シッコク! M-2クラス 所属ダイナマイト四国



番外編 でん選手 キンスポ杯を語る上で欠かせないのが、元祖エンジョイクイーンのでん選手。 現在レース出場は見合わせてるが、いつも明るく、大会を盛り上げてくれる存在!

貴女も始めてみませんか?

今回は最近近畿スポーツランドRR参加選手中心に活躍する女性ライダーをご紹介します。この他にも本当に沢山の女性ライダーがキンスポで行われる各レース、練習に励んでいます。ツーリングや街乗りを楽しんでおられる女性ライダーの皆さま、是非、貴方もレースの世界に足を踏み入れてみませんか? 日常を忘れられる素晴らしい快感が貴方を待っています。初心者走行時間やスクールも充実しております。なんでもお問い合わせくださいませ m(__)m



竹下寿美子選手 すみちゃんのお愛称で親しまれているライダーで、アグレッシブなライティングは男性ライダーに引けを取らない昨シーズンは怪我に立いた。最近船釣りにハマりつつある。M-3クラス 所属RSハミン

●秋のレースご案内

★ライティングスポーツカップ 390CUP 第4戦

11月8日(日)開催!
主催 フレックスレーシング

<http://flex-racing.net/corp.html>



★サテライトステージ & 全日本カブ耐久最終戦

11月23日(日)開催
主催 はっぴいえんどプロジェクト

<http://www1.kon.ne.jp/~happyend/>

素人・新人・カムバック組・女性歓迎!

サテライトステージ 2015

※全日本カブ耐久同日開催

第1戦 4月29日(祝)
第2戦 8月16日(日)
第3戦 11月23日(祝)

3時間耐久 R48・60分耐久 R53スプリント

主催 **はっぴいえんどプロジェクト**
奈良県生駒市高山町8531-2
TEL/FAX: 0743-79-9000 <http://www1.kon.ne.jp/~happyend/>
※規則書・申込書はHPよりダウンロード、近スポ事務所にも置いてます

●トピックス

最近成長著しいジュニアライダーが気になる!

前回の第2戦のJ-T R P杯のハイエンドファイナルレース(MIGP)決勝グリッドは18台という多さに、うち5人が小学生や中学生のジュニアライダーで、ここ最近のジュニアライダーが非常に成長し活躍している。キンスポ杯ハイエンドクラスで活躍していたジュニアライダーで現在、各ロードレース等で活躍している佐野優人、勝人兄弟や、田中歩、岩戸亮介、古澤幸也、を第一世代として、最近では笠口はるきや長谷川聖などの選手に続き、現在活躍中の細谷翼など第2世代のジュニアライダーの上達が著しくこれからの活躍が大いに期待できる。むろん、荒削りだし、体重もかるいので、タイムも伸びる頃なのだが、お互い刺激し合い、切磋琢磨することで、どんどんレベルが上がっている第2世代のジュニアライダーたち・・・今回はそんな素晴らしい可能性を秘めた有力ライダーを紹介していこう。

次世代を担うセカンドジェネレーションなジュニアたち



野村唯人 (フムラ ユイト) 11歳



四国徳島から参戦の小学生ライダーの野村。参戦当初はムラがあり、タイム的にも伸び悩む時期もあったが、積極的なレース参戦で、グングン実力を伸ばし、いまや抜きに出た存在になりつつある。課題は安定感で、気持ちが出過ぎて転倒も多く、第2戦は納得のいかない結果となった。他のレースにも積極的に参戦し、経験を積む中で、課題の安定感も出始め、最終戦はいよいよザルトを残すレースに期待がかかる。家族とともにサーキットに泊まり込み、レースに参戦している。バトルにもまだまだ課題が残るが、今年急成長を遂げたライダーの一人だ。

所属 元氣ボーイ 八光 ニューテック
車両 NSF100



佐藤真鳳 (サトウ マオ) 10歳



まお君の愛称で親しまれている佐藤、昨年のキッズクラスチャンピオンでレースでは本年度から12インチデビューなのだが、急速に成長し、第2戦では最終ラップに帝王権原を捉え、NSF100ライダー優勢という快挙で、度胸のよさも天性のものを伺わせる。身を乗り出す独特の深いバンクで、体重とグリップに頼り過ぎでは?という指摘も聞かれるが、ジュニアライダーが特に苦手とする下半身で車両をしっかりとホールド出来てのフォームなので、未熟らしい存在かもしれない。写真は横向きなのは魂が盗られる?と信じているのか?

(笑) 車両 NSF100
所属 Team 頂点&RT 極楽蝶



鈴木悠太 (フスキ ユウタ) 11歳



キッズバイク出身の鈴木 今年一番伸びている選手かもしれない。昨年の最終戦MからのM-EX初挑戦の転倒の悔しさをバネに練習に日々励み、レースでも安定感が出てきた。第2戦のMIGPではNSF勢最高位となる6位フィニッシュという素晴らしい成績を収めた。車両と一体化した無駄のないきれいなフォームで、切り返しなども非常に切れがあり、総合力も非常に高い選手である。他のライバルの存在が良い刺激となり、益々上達することに期待したい。最終戦非常に注目したい選手のひとりである。

所属 Grip
車両 NSF100

北川圭一杯 K1.Kitagawa Cup
ミニバイクレース2015 Mini Bike Race
12月6日(日) 近畿スポーツランド
※レギュレーションをよく読んでからエントリーしてください。



岡村 空美 (オカムラウケイ) 13歳

全日本ライダー古澤幸也の所属するFL EXのジュニアライダー。日頃から幸也に指導を受けながら、メキメキ実力を付けている。第2戦は不参戦だったが、最近では練習を重ね、タイムも著しく良くなってきている。第1戦は46秒台だったが最近は一皮むけたようで、44秒台をアベレージで走行できるようになってきている。まだまだ課題は山積みだが、持ち前の元気で、今後急成長が期待できるライダーの筆頭になるだろう。最終戦どれほど実力が伸びたか非常に楽しみだ。

所属 フレックスレーシングチーム

岩田 凌吾 (イワタ リョウゴ) 12歳

未だ12インチに乗り換え、日は浅いが、毎週のように練習に訪れ、日々上達し、練習中のアベレージタイムも日進月歩で進化している。ライン取りの自由度やブレーキングではまだまだ課題が残るが、最近ではめまぐるしい成長を見せ、最終戦の活躍が非常に楽しみな選手だ。最終戦もさることながら、来シーズンに非常に期待の持てるジュニアライダーである。ヨーロッパの名門チームのジュニアの名に恥じない速くて強いライダーに成長することが期待される

車両 NSF100
所属 ジュニア イタリアトランス



松岡 玲 (マツオカ レイ) 13歳

小西杯でコニーを破ったS8のレジエンドライダー山岡選手の愛弟子の松岡選手岡山からの遠征で、第1戦にいきなりM1GPに参戦！ 第2戦ではなんとキンスポのレース2回目にして4位に入る驚愕の成績を収めた。非凡なことはもちろんだが、ストイックに全国制覇という目標に向かって日々努力を重ねているようで、今現在一番実力のあるジュニアライダーといっても過言ではないだろう。非常に鍛えられており、レースやバトルにも強そつだ。

車両 NSR333
所属 PRIDE1★JOKEJOY

雑感(ある主催者の独り言)

ライバルの存在・・・これほどスポーツをしていく上で、これ以上有りがたい存在は無い。同じスポーツ、同じような境遇、同じような年齢等、彼に(彼女に)負けたくない、勝ちたいという気持ちがあるからこそ、お互いをいい方向に高め合えることは何事にも代えがたい。そうライバルはかけがえない財産であり、友でもあるのが本来有るべき姿と私は思う。そんな高め合いが上達のための最速の近道で、採算度外視で底辺のレース運営する全国の各主催者や関係者を動かす原動力となる。ジュニアライダーに関しては、家族の協力が無くしてはなしえないことで、親御さん始め、周りの応援する人間にも当然のごとく熱が入る。それは大いに結構なことだ。しかし、つい熱くなりすぎて、焦って現段階では無謀な難題を投げかけたり、他のライダーや関係者を恨めしく思ったりしてしまうこともあるようだ。そんな思いからか？過去には車両にしているいけない細工を施した親御さんもいたし、匿名のネットでなじったりする方もいたし、危険な走行になる事もあった。それがレース競技の負の部分かも知れないが、そんな悪い意味での殺伐とした状態にレースやライダー同士の間が成ってしまうと、大会や業界、そして何よりも将来有望なライダーが消えて行ってしまう。そんな事を何度も見てきたような気がする。これからのバイクレースを支える青少年は正しい鍛錬を積み、正々堂々と心技体を鍛えて行ってほしいと願わずにはいられない。そして、将来的には企業や団体に所属することもあると思うので、礼儀や仁義を重んじるそんな選手、いや人間に成長してほしい。常に前へ！

末端の主催者は日々そう願う。

J-TRIP杯 各クラスレポート

●ジェネレーシヨンクラス

オーバー40歳のライダー達によるジェネレーシヨンクラス予選タイムアタックはなく、女性はいく引き、男性は年功序列でグリッドが決定する。若い人ほど後方のグリッドになるシステムである。今回は、なんと15台ものエントリーでレースがスタート。

勢いよく飛び出したのはクラス最年長の渡辺・2番手に松本・3番手は唯一の紅一点がおりん・畑・吉川・丸野のオーダー

3周目の1コーナーで松本がトップに浮上するもすぐさま渡辺が抜き返す。松本のすぐ後ろに畑がつけ、トップ争いは3台でのバトルとなる。少し後ろの4位集団は、かおりんを先頭に6台での争いを繰り広げている。レース終盤、渡辺と畑の一騎打ちの様相となり、チャンスを伺っていた畑だが攻め切ることが出来ず、2番手のままチェッカーとなってしまった。初戦に続き、最終トップを守り切った渡辺が見事2連勝を飾る。3位は中盤からペースが上がらなかつた松本・4位は丸野となった。



優勝 渡辺 広人



4位 丸野 公義



2位 畑 彰



3位 松本 朋彦



●ルーキークラス
老若男女さまさまライダーが走行する、初心者向け制限タイム49秒のルーキークラス。予選1位のミルキー選手がM・3クラスにクラス変更となった為、11台でのスタートとなる。全車きれいにスタートとつと言いたところだったが、2番グリッドの河田選手が大きくフライングをしてしまい、周りのライダーはそれに戸惑い出遅れる形でルーキークラスのスタートが切られた。

勿論ながらホールショットは河田が獲得、2番手はポールポジションだった水池、3番手にはスタート時の混乱に巻き込まれなかつた中本のオーダー。トップ争いは3台の集団となり、3番手中本が水池をホームストレートで捕え、2位に浮上！か？と思われたが、ブレーキングで水池が2位を死守する。3周目にトップに追いついた水池が河田をリトパコーナーで捕えトップに浮上したが、すぐさま河田が抜き返す展開となる。スタート後、下位に沈んでいた芳賀だったが、1周ごとに着実に前を捕え、5周目に4位集団の先頭に立ち、3番手の中本を猛追する。迎えたファイナルラップ、最大5秒もの差があったが中本のすぐ後ろまで追いつくが、抜くところまでは行けず4位でゴール。しかし、制限タイムを切つてしまいう名譽の章典外となった。トップでチェッカーを受けた河田だが、フライングのペナルティーがあり3位となる。繰り上がる形で優勝は水池・2位中本となった。



優勝 水池 成弘



2位 中本 律子



3位 河田 優枝

●M-3クラス

制限タイムは46秒5のM・3クラス。今大会最多の24台でレーススタート。ホールショットは予選2位の村上・2番手にPPPからスタートの森田・3番手デンジャーゾーン吉川・河野・丸野・河田・小椋と続く。村上と森田の2台が抜け出し、少し間があき3位争いは4台での集団を形成してレースは進んでいく。

4周目の1コーナー立ち上がりで4位走行中の河野がハイサイド転倒！すぐ後ろにいた丸野も突つ込み転倒を喫してしまい残念ながらリタイアとなってしまった。レース終盤、周回遅れの出現で、3番手吉川と4番手河田との差が急激に縮まり、テールトゥノーズとなり10周目1コーナーで見事なブレーキングで吉川を河田がパスし、3番手に浮上！スタートからトップを快走していた村上だが制限タイムを終始切り、名譽の章典外となったので、前日練習の最終コーナーで転倒レマシンを大破してしまった森田が見事キンスポ初レース初優勝に輝いた！2位はファイナルラップに周回遅れのライダーのパスに戸惑っていた河田をリトパコーナーでパスした吉川となった。3位は悔しい展開になった河田となる。4位野奇・5位山本・6位山口の順位である。



優勝 森田 優希



2位 伊藤 春明



3位 河田 弘毅



4位 野奇 真史



5位 山本 智



6位 山口 洋弘

●M-2クラス

激戦M2クラス 19台でのスタートとなった。非常に僅差の激しい戦いが予想される中、緊張のスタート！素晴らしいスタートを見せたのは5番グリッドの田中、2番手に17インチの畑、3番手立岩、4番手にポールのフリーザが少し出遅れた。以下山本、松本、渡辺、村上、伊藤と続く。2周目17インチの畑が田中をかわしてトップに浮上！畑がハイペースで、レースを引っ張る。その後、山本がフリーザを捉え4番手に。残り4周あたりで、徐々に2番手の田中がトップの畑に追いついてきた。畑はタイヤの関係か？体力の関係か？ペースが上がらない様子。残り3周の1コーナーで、ついに田中が畑を捉えトップに浮上！残り2周には追い上げてきた山本が畑を捉え2番手に。そしてファイナルラップに立岩も畑を捉え3番手に浮上！そのままのオーダーでフィニッシュとなり、見事に田中選手が優勝！2位に山本、3位立岩、4位後半が苦しかった畑、5位にフリーザが入賞を果たした。各コーナーで激しいバトルが展開され、全てをお伝えすることは出来ないが、最終戦も皆さん素晴らしいレースを期待して下さる。





3位 立石 宗一郎

4位 畑 彰

優勝 田中 孝寛



5位 フリーザ

2位 山本 零



●M1クラス

群雄割拠！若手、ジュニア、ベテランのギラギラクラスM1決勝！3人のライダーが最高峰のMGPクラスに上がったため、9台での決勝となった。ホルンショットを奪ったのはポールスタートのチームコニの中川涼！今回はかなりの気合が伺える。2番手はベテランの大林的XRモタード3番手は17インチ若手の羽根巧、4番手はTITECHの後藤田、以下山極、津田、前田、山崎、揚張と続く。序盤から中川が2番手以下を大きく引き離しにかかると、2番手争いは激しく、ドックファイトが続く展開で、場内の注目には、羽根が少し抜きに出て、2番手に、3番手後藤田、4番手に山極、序盤2番手の大林はペースが上がらずに順位を落とした*。その後ろではベテラン津田と前田の17インチ同士の争い。トップの中川は順調に周回を重ねる。レースが動いたのは残り2周の1コーナーで、後藤田が羽根を捉え、2番手に浮上するが3コーナーで羽根がさし返し、ファイナルラップには山極が動き、後藤田を捉え3番手に浮上！17インチの前田も後藤田を捉え4番手に浮上した。優勝はポールトゥウィンで見事に中川が初優勝！2位に終始安定していた17インチの羽根、激しい3位争いは花粉のシーズンが去り元気を取り戻した若手の山極が見事に表彰台そして、MGPの挑戦権を得た！



優勝 中川 涼



2位 羽根 巧



5位 山極光士

●SP&SP4クラス

昨今レギュレーションが混沌としているSP&SP4クラス。今回は2st1台・4st3台という時代の移り変わりを象徴する形でのレースがスタート！ホルンショットは番長UNO-P・SP4クラス初参戦の新岡・4st1年生の野崎・田村と続く。やはりスタート直後からスパートをかけたUNO-Pが後続を引き離しアドバンテージを築いていく。新岡vs野崎の2位争いが激しくなり、4周目に野崎が1コーナーで新岡を捕え2位浮上、6周目負けじと新岡も1コーナーで入り2位に上がるが3コーナーで接触しながらインに入り2位を守る。しかし10周目は新岡が野崎を捕える。レースの醍醐味である駆け引きを繰り広げながら迎えたファイナルラップ。今度は野崎が1コーナーで新岡を刺し2コーナーでは絶妙なブロックラインで2位を死守しチェッカーとなった。優勝はUNO-P・2位激しいバトルを制した野崎・3位は競り負けてしまった新岡・4位田村となった。



優勝 UNO-P☆



●FP4&FPクラス 妻上 日本一決定戦！

10インチスクーターによる4ST125ccのノーマル車両と2ST50ccの準改造車両での同一賞典でのレース。今回は関東・中国地方からライダーが集まり15台ものエントリーとなった。そこで、今回は無理くり(笑)第1回事業上日本一決定戦として開催した次第である。全車綺麗にスタートを切り、民谷(4スト)・三浦(2スト)・死神(2スト)・佐藤(4スト)・中尾(4スト)の順で第一グループを形成し、1周目をクリアしていく。第一グループはリトパノ・矢部・宮岸・下瀬・高橋・屋代・藤田と続く。三浦が2周目民谷を1コーナーのブレーキングで差し、トップに浮上するも、翌周同コーナーで民谷に差し替えられる。3周目、一人の師匠である2ストテイオの死神が、1コーナーで民谷を捕え損ねた三浦を2コーナーで差し2位浮上！リトパノコーナーをクロスラインで走行した死神が民谷を捕え、トップに躍り出る。ここから民谷と死神の師弟対決が毎周順位を入れ替えながら一進一退の好バトルが始まる。3番手の三浦は猛暑で熱ダレを起こしたのか？二人に付いていくのが一杯の様子だ。死神・民谷・三浦の順で迎えたファイナルラップ、愛弟子二人の手の内を知り尽くしている死神が要所で巧みにブロックラインを使い、一人に勝負をさせず、第1回事業上日本一決定戦、優勝は死神博士が栄冠に輝いた2位は民谷・一時トップを走行する活躍を魅せた三浦が3位・4位佐藤となった。(10面に関連記事)

事実上日本一 死神博士

2位 民谷賢司

3位 三浦康大

4位 佐藤龍彦



●キッズ

子供たちの熱き戦いキッズクラス。今回は6台のエントリー予選ではスズキDRZ50をフリーとする鈴木選手が初のポールポジションを獲得。2位は初参加の森田選手、3位にRSハミンの堀井選手と続く。CRFのシエアーが多かったこのクラスだが、予選上位3台はスズキDRZ50となった。

決勝のスタートが切られたが、予選2位の森田がスタートミスし最後尾まで順位を落としてしまふ。抜群のスタートを魅せた中部から参戦の濱嶋が2番手に浮上する。

レース3回目、6番手の森田がストレートで岡村をパス、続く1コーナーでも長内のインに捻じ込むが両者接触・転倒！共に残念なりタイアとなつてしまった。1位は、スタートから後続を引き離し、見事優勝を決めた鈴木・濱嶋とのバトルを制した堀井が2位・3位濱嶋・4位は岡村となった。



優勝 鈴木 壮太



2位 堀井 颯太



●バトルウォースクラス

異種格闘によるポイント制レース。レース順位のポイントに車両ハンドの係数(1倍〜1.5倍)をかけて総合ポイントにて順位を決定する新しい形のレースとなる。従ってOP車両が一番係数が低く、ノーマルにより近いFN車両が一番係数が高くなっている。今回は、本命レースの為に練習を兼ねてダブルエントリーで出場してくれるライダーが多く、13台ものエントリーがあった。レースは、やはりOP車両の2台Mrポポと田村が抜け出し、M仕様の志村・山極、FN4&FP車両の死神・民谷・三浦・中尾と続く展開だ。6回目トップMrポポを1コーナーのブレーキングで捕え、田村がトップに浮上する。Mrポポも3コーナー進入をワイドに取り、立ち上がりラインで田村に並び、クランク進入では田村が前だ。ファイナルラップ勝負所の1コーナーでMrポポがイン側にラインをとりブレーキング勝負となったが二人のラインが交錯し接触してしまう。両者転倒は免れたが、田村のエンジンが停止(**)そのままタイヤとなった。Mrポポ・志村・山極・死神の順でチェッカーを受けたが、車両ハンドの係数が計算され総合ポイントによる順位は、1位M車両・志村 2位OP車両・Mrポポ 3位FP車両・死神博士 4位M車両・山極となった。

●NSF100HRCロビー



優勝 クリスタル けいちゃん



2位 ミスターポポ



4位 山極 洸士



3位 死神博士

ベテランとジュニアの世代を超えた熱き戦い！NSFのワンメイクレース。今回初参戦の急成長を見せるジュニアの一人・・・マオ号事、佐藤まおが、なんとポールスタート！緊張のスタート！まお号がいいスタートを見せたが、トップに立ったのは大ベテランの帝王！神原浩一2番手に野村唯人、3番手に土橋、マオ号は4番手と出遅れてしまった。以下ジュニアの鈴木、M・NSF後藤、ジュニアの岩田、戸口、飯吉と続く展開・・・レース中盤にジュニアの鈴木とマオ号がなんと元チャンピオンの土橋を抜き3番手、4番手に浮上！トップの神原も野村に付かれ、ニールトゥーノーズ状態で・・・そうこうしているうちに、勢いが止まらない鈴木とマオ号がトップの2人に追いつきトップ争いは4台に広がる。自分の父親より年上の神原に3人のジュニアが襲いかかるといふミニバイクレースならではの興奮の展開に場内は異様な盛り上がりを見せる中、残り3周に鈴木が1、2コーナーで仕掛けるも失敗、その間にまお号が2番手に浮上する。そして、神原がスパートをかける！まお号も必死で喰らいつく・・・離された野村がなんとか追いつき、ファイナルラップ突入直後の1コーナー出口で、野村が土煙を上げてコースから消えた・・・野村痛恨の転倒！そのままタイヤとなってしまった。(**)そして神原トップで複合、リトパへ・・・まお号仕掛けられず・・・？・・・？・・・と思いきや・・・キタニニマオ号！一瞬油断したのか？最終手前で神原のインが開いた隙を狙って、なんとマオ号がインから飛びこみ最終コーナーでライノクロス直線勝負！！！！！！僅差中の僅差でなんとマオ号事、佐藤まおが初優勝！！場内はこの日一番の歓声に包まれた！2位にトップのはずの神原、3位に鈴木が表彰台をゲットした。正しくキンスポNSF100ロビーが始まって10年・・・最も素晴らしい逆転劇の興奮のレースとなった。

●OPクラス



優勝 佐藤 まお



2位 神原 浩一



3位 鈴木 悠太

毎戦成立するか？ドキドキのOPクラス。筋斗雲二をアップデートしたMrポポ・我らがJヒゲ社長・TZ124FMを駆る畑選手・近年台湾で活躍中の長谷部選手。計4台でのレースがスタート！10インチスクーターの長谷部がポールポジションを獲得。Mrポポ・ジュベット岩倉・畑と続く。スタート直後からスパートをかける長谷部だが、10インチということもあってか？思うようにペースが上がらない。いやむしろMrポポのペースがいい！

5周目のストレートで並びブレーキングで長谷部も粘るが、Mrポポがトップに浮上！先行を許した長谷部だがビタリと後ろにつけ、虎視眈々とチャンスを伺っている。何も起きずにレース終了かと思われた10回目、1コーナーを大きく回った長谷部が次の2コーナーでMrポポのインを鋭く突き、トップに返り咲いたと思った瞬間、大きくリアをスライドさせてしまい転倒こそ免れたが万事休す。

二連勝を決めたMrポポが見事優勝・2位長谷部・3位ジュベット岩倉・4位畑となった。

●Motok4クラス



優勝 Mr.ポポ



4ストノーマル・ストックのチャンピオンシップ。次世代のメインクラスとなるであろうMOTO4クラス決勝1台で争われた。絶好調のベテラン田村がポールポジションからベストスタートで、ホール

シヨットを奪う！2番手は去年のチャンピオンの布施川、3番手土橋、以下小島、後藤田、森本、河野の順で展開し、トップ集団は田村、土橋、布施川、小島の4台に2周目早々に土橋は布施川を捉え2番手に浮上し、田村を追う・・・田村を先頭に残り周回数順調に消化される展開に順調に逃げる田村に今日は中々ペースの上からない2番手土橋・・・このままの展開で見事に田村が逃げ切り念願の初優勝を遂げた！2位に土橋、3位に布施川が入った。ポイントトップは37ポイントで土橋、2番手に優勝した田村が33ポイント布施川が26ポイントとなった。最終戦チャンピオンは誰の手に？今から非常に楽しみである。



優勝 田村 嘉宏



2位 土橋 亮一

●CBRR250R ドリームカップ

NSF100HRCTロフィークラスと同様にグラッドチャンピオンシップの挑戦権をかけた熱き戦い。今回は3台でのレースとなったが、全員が10代の参加者で若さ溢れる走りに期待したい。綺麗にスタートを決めた吉田がホールシヨット。スタートと同時に大きくフロントをアププさせてしまった松本。その後の上手くりカバリ2番手へ、3番手は古高のオーターとなる。2番手の松本が最終トップ吉田にプレッシャーをかけ続け、チャンスを待っている様子だ。しかし、高い集中力で走行を続ける吉田に付け入る隙はなくトップでチェッカーを受けた吉田が見事キンスポ初優勝を飾った！プレッシャーをかけたが惜しくも松本が2位・3位古高となった。



優勝 吉田 隼



●M1GPクラス

猛暑の中の猛暑で開催されたJ-TRIP杯・・・いよいよオオトリの最終レースM1GPクラス決勝！今回は現金争奪大予想も普段の倍の6万円！といつこともあり、多くの観客の注目度も心なしに非常に高い！最終的にグリットに並んだのはなんと18台！初エントリーの若手越谷のエントリーや、M1から見事勝ち抜いた中川、羽根、山極の若手3人の成長も非常にうれしい。そして、クラス変更でM1GPに上がってきたジュニアのまお号事、佐藤まお、若手で唯一XRでの参戦ながら、素晴らしいタイムを叩き出し好調の楠、そしてベテラン田村も最終レースに返り咲き、総勢18台の役者がそろった。運命のシグナルがブラックアウト！好スタートを見たのは、とりおギャラクシー（以下トリ）1コーナーでホールシヨットを奪うが、すぐさまキンスポ番長UNO-Pがトップに立つ！いつもの盤石な逃げ切り態勢か？1コーナーでいきなり3台の絡む転倒が、田村、楠、越谷の3人が転倒してしまう。1周目はUNO-Pとり、細谷、クリスタル、松岡、野崎、野村、佐藤、鈴木、布施川、伊東と続く・・・2周目には予選ボールのジュニア細谷がとりを難なくかわし、2番手に浮上し凄じいペースの追い上げで、番長UNO-Pに迫る。4番手争いはクリスタルと松岡、そして野崎の3巴の展開に・・・細谷を振り切るうとペースを上げる番長UNO-Pだが、細谷はピツタリとUNOの背後につき離れない・・・今日の細谷は速い！！この路面温度ではUNOも無理は出来ない！番長UNOが細谷に追いまわされる非常に苦しい展開に・・・場内も起るのか？下剋上！と固唾をのんで見守る。残り4周の2コーナーで細谷がUNOのインを衝き、ついにトップに！！と場内が沸いた瞬間だった！無情にも細谷のリアが滑り痛恨の転倒！！初優勝の期待が膨らんだ細谷の夏はここで終わった・・・こうなるか？とりおギャラクシーそして、3番手争いは岡山山のジュニア松岡玲とクリスタルけいちゃんそして野崎の争い！3位の行方次第で大予想大きく変わるため場内も3位争いの応援に熱が入る！！クリスタルが辛くも逃げ切り3位表彰台を獲得！松岡は悔しい4位、野崎5位、6位にはジュニアの鈴木が見事4スト勢トップでフィニッシュ！位にはクラス変更で上がった佐藤が素晴らしいレースを見せた。これでポイントが番長UNOが単独トップの40ポイントクリスタルとりが32ポイント同ポイントとなり10月25日の最終戦KTC杯に突入する。最終戦！番長を倒すのは？



優勝 UNO-P☆ (宇野正弘)



3位クリスタルけいちゃん



2位とりおギャラクシー

**J-TRIPスペシャルライブ
左啓史(サザキ ヒロシ) イン キンスポ!**

J-TRIP杯キンスポお昼のスペシャルイベント
シンガーソングライターの左啓史さんのライブがコース上
にて開催された。鈴鹿8耐の翌週に開催された今大会・その
の疲れを癒すまでもなく愛車のシャドウファントムで、颯爽と
現れた左啓さんか、全てのライダーを応援するために、熱い
熱い路面の上で、正しく熱唱!開場は左啓さんの熱いメッセ
ージに大いに盛り上がった! 代表曲花火や8耐など素晴らしい心
のこもったメッセージに会場に訪れた全ての人に深く届いたこと
だろう。また、天空のサーキットに是非熱いメッセージを届け
に来てほしい!



左啓 啓史 Hiroshi Sasaki 滋賀県出身。東京都在住。
昭和50年7月9日生。虫身。

HONDAの大型バイク、シャドウファントム7500ccギ
ターを賣りて走つてゐる事から、『シンガーソングライダ
ー』と呼ばれてゐる。2000年、『モーターでデビュー』
2002年、世界最高峰の2輪レース「鈴鹿8耐」に
於いて、鈴鹿8耐とLOVEBIKEメツヒンジャーとハラ言
書きの元、「鈴鹿8耐への道」と題して旅を10年間決行。
その想いを詰め込んだ「8耐」モーターを収録されたこの
を発売。滋賀県で有名な飛び出っ方や『とび太くん
交通安全大使』にも就任した。(オフィシャルHPより抜粋)

事実上 FN4 & FP 日本一決定戦!

第2戦のFN4 & FPクラスは、日本各地から沢山のライダーがエントリーしてくれたため、
この第2戦を急遽ながら事実上 日本一決定戦として開催された。事実上というのはエント
リ募集時は日本一決定戦と謳ってないので、今回は冒頭に事実上と付けさせていたのだ。
日本一決定戦と言われるミニバイクレースでも中々開催されない不遇のクラスFN4 & FP
クラスそれなら発祥の地キンスポで開催してしまおう! というノリで、開催させていただき
ました。(笑) 来年は白糸スピードランド?で開催されるかどうかわかりませんが、比較的安
全で、10インチ車両という点でも安価で始めやすい!でも奥の深いスクーターレースを
残したいという思いで、月見草のように地味だが強くほのかに輝き続ける事を願いつつこの
小さな種がそだちますように。



関東甲信、東海、近畿、中国地方、地獄、
日本各地から15台の強豪が集結!



初代チャンピオンには このクラスの発案者の死神博が輝いた!



KINSPO RACING PHOTO SERVICE
近スポレーシングフォトサービス!!

近畿スポーツランド杯写真販売

プロレーシングカメラマン
大西としや



プロカメラマン大西としや撮影の
キンスポ杯の写真の販売中(エントラント向け)
写真は全てヘルメットのロゴまでパッチリプリントの合ったものをセレクトしています。



シリーズ飛翔 (若人よー時代は厳しいがなんとかはだけー) VOL.3

キンスポで練習やレースに励みロードレースに挑戦するライダーを紹介するコーナーです。第3回は西田信義君です。

●氏名 西田信義 (にしだ のぶよし) 15歳

●奈良県出身、工業高校1年

●所属チーム FLEX RACING TEAM

●参戦レース 筑波RRS80クラス KTM390CUPwith METZELER

●参戦予定 全国地方選手権 S80クラス KTM390Cup の2クラス

●ご紹介

幼少より74でキンスポに通い詰め、練習に励む12インチに乗り換え苦労した時期もあったが、根気よくコツコツと練習に励む。ノブのぶりん等の愛称でかわいがられ、現在15歳の立派な青年に成長！S8や新しく始まったKTMのワンメイクレースに挑戦し見事に初戦優勝している。今後益々成長が期待されるライダーだ。尚、2010年に記録した現74ダイジローのレコードは今現在も破られていない。

●キンスポについて

キンスポは、僕が7歳の時からポケバイ時代からお世話になっているサーキットで一番落ち着いた大きな場所です。

●本人コメント レースでしっかり結果を残せるように頑張りたいと思います。



最終戦 10月25日 (日) 開催!



杯近畿スポーツランドミニバイクロードレース

仁義あふれるライダーたちの仁義なき戦い!

- バトルウォーズクラス新設!
- M系4クラスが名称変更! M-GP・M1・M2・M3
- CBRドリームカップ開催! (E/B)



☆夢中になれるから楽しい! 悔しいから上達する! スプリントレースしませんか?

☆ネット・現金書留・事務所

最終エントリー締め切りは10月18日 (日曜日) 迄!!

近畿スポーツランド公式ホームページからエントリーできます!

ホームページ <http://www.kinspo.com/>



観戦歓迎! 入場料中学生以上お一人500円必要です m()m



色々 販売してます!!



- 新品・中古タイヤ ●ワコーズ製品
- 純正パーツ ●ゼッケン ●公式ステッカー
- インスタントラーメン (お湯・箸付き)
- 一休お風呂券 ●売店 (阿治力)

キンスポ杯 ライダーファイル VOL7



●プロフィール
 氏名 布施川 澄 (フセカワキヨシ)
 年齢 34歳
 趣味 バイク旅・レトロゲーム
 職業 自動車整備工
 好きな食べ物 トンカツ
 特技 料理・その他!

コメント
 楽しみ方は人それぞれですので、とりあえず僕は小さな目標を作って上達出来るように楽しみます。 よろしくお願ひします。
 ●派手さはないがコツコツと練習に励み、去年Moto4クラス初代チャンピオンに輝く!今年度はM-GPにも参戦!決して小柄ではなくNSFでの参戦だが、努力で今後の成長に期待

編集後記 やっちゃんの独り言 Vol.5
 2ストから4ストへ...時代の流れの中、揺れ動く2輪業界...そんな大きな枠組みの中の小さな枠組みで開催される3日バイクレースもその例外なく、2スト車両の減少に歯止めがかからないのは時代の流れの中、いたしかたないことかもしれません。しかし、多分の資金が必要なモータースポーツは大きな変革をするときは、やはりソフトウェアで徐序にその方向を変えて行つてほしいと思うのが私の本音です。2スト車両の部品が次々高額化や廃番になり、現役でまだまだ沢山走っている2スト車両...特に3日バイクレースではNSR50という名車中の名車がありますね。レースの中で、四半世紀に及び基本設計がほぼ同じ車両が第一線で活躍するなんて...ロードレースではありえないことですね...そう、それだけ素晴らしい車両ということなんだと私は思います。 去年のキンスポRRの統計で、4スト車両の参加台数が2ストを越えましたが、まだまだ2ストのライダーも多く、資金的に乗り換えが難しい方もまだまだ多くおられる事も事実です。軽量で、部品点数も少なく、小排気量でハイパワーを得られ、メンテナンスも非常にしやすい2ストエンジンはやはりレースをする者にとってはとてもありがたいエンジンだとも思います。でも環境問題が叫ばれる昨今では、やはり消えゆく運命にあると思いますし、各ライダーが徐序に乗り換えて行く今は、正しく転換期で、非常にレースレギュレーションに各主催者さんも頭をなやましてるのではないのでしょうか?正直、特性の全く違うエンジンの車両を同じ速さにすることは至難の業で各サーキットの特徴でかわるものもあるし、ノーマル・ST・SP・OPの定義も非常にややこしくなっている昨今です。業界統一規則みたいなものがあればいいのかもしれませんが、それぞれ皆さん考え方が違うみたいなので、これもまた難しいのかなあ...とにかく一番に参加者ライダーの皆さんが安価で楽しめ、分かりやすく、統一される事を願っています。キンスポとしては、やはりノーマルエンジンの基本としたレギュレーションという方向性で進めています。エンジンをチューニングしなくても誰でも気軽に参戦できるというメリットもありますが、速さを極めようとする、素養の高いエンジンを探し、何機も買い求めなければならないという逆にお金のかかることにもなる事もしばしばです。ノーマルエンジン程、速くするためのレギュレーションを探る車検も複雑になりますね...参加者の皆さんのモラルが円滑なレース運営には欠かせません よろしくお願ひします。

それでは最終戦KTC杯でお会いしましょう! (^_^) <

(^o^)/なれるより習え! KSLライディングセミナー 受講生募集!!

